

基山町議会

議長 重松 一徳 様

総務文教常任委員会

委員長 天本 勉

所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を終了したので、その結果を報告します。

記

1 調査事項及び調査期日

- (1) 基山小学校の増築工事と特別支援教育について 令和6年8月6日(火)
教育学習課の概要説明及び現地視察

2 調査結果

障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、特別支援教育を行うこととされており、障害をもった児童生徒のため学習上または生活上の困難を克服するため特別支援学級を設置している。

近年、児童数の増加や35人学級が開始されたこと等による教室不足に対して、特別教室の改修等で対応してきた。しかし、令和6年度に特別支援学級が増加する見込みとなり、今後も特別支援学級の教室不足が見込まれることから、令和6年3月に増築校舎の整備を行った。

増築校舎は鉄骨造2階建。1階は特別支援学級4教室を設置し、2階は多目的ルームとして活用されている。今年度は1階の特別支援学級4教室すべてを使用し、2階の多目的ルームは不登校児童対応の「さくらる一む」として使用しており、放課後は放課後児童クラブが利用しているとの説明を受けた。

特別支援学級の児童数増の理由について質したところ、児童数の増加もあるが、児童の特性に合わせた最適な学びを受けられる特別支援学級を選ぶ保護者が増えたことや、子どもの特性を理解し早めの療育につなげる家庭が増えたこと、また、保育園等と小学校との連携により情報共有がうまく取れるようにな

ってきたことなどが要因であるとの説明を受けた。

「さくらの一む」と「まいる一む」の違いについて質したところ、増築校舎の整備により2階の多目的ルームに余裕ができたため、本年度より「さくらの一む」を設置した。学校の敷地に足を踏み入れることができない児童は保健センター内の「まいる一む」を利用し、学校には来れるが教室には入れない児童が「さくらの一む」を利用している。曜日や時間によって異なるが、6人から7人が利用しているとの説明を受けた。

特別な支援を必要とする児童生徒や不登校の児童生徒が増加傾向にあり、きめ細かな支援を行っていく必要がある。

当委員会としては、学校が児童生徒にとって楽しく学び、安心して生活できる場となるため、カームダウンルームを作るなどの環境整備を提案した。